

平成 21 年度 第 4 回 高大連携協議会（機械系）

日時：平成 21 年 12 月 7 日（月）13:00～15:00 会場：宮崎工業高校 図書室

<出席者> 工業高校から 9 名出席
宮崎大学工学部機械システム工学科から 5 名出席

協 議 内 容

- ・議事に先立ち、宮崎工業高校 副校長より挨拶があった。
- ・出席者の自己紹介が行われた。

1. 高校側からの現状説明

- ①資料をもとに、新学習指導要領、中教審答申における「職業に関する改善の具体的事項」、平成 21 年度第 1 回宮崎県産業教育審議会、明日の産業を担う専門高校スペシャリスト育成支援事業等についての説明があった。
- ②次のような質疑応答が行われた。
 - ・宮崎県産業審議会の進捗状況はどのようになっているのか。
→第 1 回が開催されたが、まだ、十分な審議は行われていない。
 - ・少子化に関連して、今後の工業高校への入学生の見通しはどのようになっているのか。
→宮崎県は、10 年間で 30 クラス（1200 名）減の計画であるが、普通科との比率は変わることはない。
 - ・新学習指導要領の義務教育の定着に関して、授業内容が減少することにならないか。
→工業高校に限らず、全国的に基礎学力が低下している。理科の学力がトータルとして落ちており、特に空間想像力について顕著である。基礎学力を定着させ、授業内容を精選する必要がある。
関連して、大学での補習授業について紹介された。

2. 大学側からの現状説明

資料をもとに、入学試験、在学学生、卒業後の進路について説明があった。

3. 技能を持った技術者を育てるために高校側、大学側でできることについて

- ①資料により、山梨県立甲府工業高校と神奈川工科大学との課題研究での高大連携について紹介された。
- ②標記について意見交換を行い、次のような意見が出された。
 - ・大学では、実習が減ってきているので、大学では技能を教えることはできない。
 - ・工業高校で、普通科を卒業した大学生に技能を教える。大学では体験入学などをレベルアップした講義を行ってはどうか。
 - ・大学で行っているデザイン科目を高校生と大学生を一緒に受講させたらどうか。
 - ・工業高校卒の学生は、大学にいる間は身につけた技能をアピールする機会はないが、卒業後にはアピールできる。
 - ・大学へ進学する生徒については、自分から勉強をできるような資質を育てるべきである。
- ③継続審議とした。

4. その他

- ①農学工学研究科博士後期課程への入学の勧誘があった。
- ②高校の自己評価についての新聞記事等の紹介があった。

以上